

公益社団法人 日本地球惑星科学連合

加盟学協会 49 団体 そのうち

14 団体が防災学術連携体に参加

Japan
Geoscience
Union

5つのサイエンスセクション

宇宙惑星科学セクション

大気水圏科学セクション

地球人間圏科学セクション

固体地球科学セクション

地球生命科学セクション

会員 約10000名

連合大会 2018 7000人

5000 発表

ユニオンセッション 1

2018年連合大会 27/233 sessions

環境・災害対応委員会：連合は環境・災害にどう向き合っていくのか？

大気水圏科学 3

最新の気象科学：台風研究の新展開～過去・現在・未来，Precipitation Extreme，熊本地震に伴う地表水と地下水の変化

地球人間圏科学 8

Advanced remote sensing toward Mega-Disaster Response，地すべりおよび関連現象，Natural hazards impacts on the society, economics and technological systems，海底地すべりとその関連現象，津波とその予測，湿润変動帯の地質災害とその前兆，人間環境と災害リスク，福島第一原子力発電事故後の地域復興で科学者が今後取り組むこと

固体地球科学 8

Effective usage of PSHA，活断層と古地震，地震予知・予測，強震動・地震災害，火山防災の基礎と応用，活動的火山，火山・火成活動および長期予測，アジア地域の地震・火山・テクトニクス

教育・アウトリーチ 1

災害を乗り越えるための「総合的防災教育」

領域外・複数領域 6

Interdisciplinary studies on pre-earthquake processes，Thunderstorms and lightning as natural hazards in a changing climate，地震・火山等の地殻活動に伴う地圏・大気圏・電離圏電磁現象，津波堆積物，火山噴煙・積乱雲のモデリングとリモートセンシング，福島原発事故により放出された放射性核種の環境動態

自然災害リスクの理解と軽減へ

地球惑星科学は学際的取組みを推進

日本地球惑星科学連合

理事会，環境・災害対応委員会，
各セクションボード，加盟学協会

- ・ 災害発生時の情報共有・発信
- ・ 連合大会における共同セッション
- ・ 日本地球惑星科学連合の災害対応をリード
- ・ 災害対応における工学分野等との共同
- ・ 教育・アウトリーチ